

幸せな日々の裏には税金が

釧路町立別保中学校 三年 廣野 結菜

「税金」と聞いて良いイメージは持たなかった。何のためにあって、どのように使われているのかさえわからなかった。しかし、私はその税金に助けられていて、毎日の生活の支えになっていることを知った。

私は今自信を持って幸せだと言える。理由は単純で、充実した生活を送れているからだ。学校で沢山の事を学べる、病気や怪我を治療してもらえるなど、私たちにとっては当たり前のことかもしれない。だが、これらは決して当たり前ではなく、裏には沢山の支えがある。その一つが税金だ。税金は私たちの暮らしに当たり前をつくり、より充実したものにしてくれる。

学校では、ほとんどのものに税金が使われている。教科書や机、椅子などは聞いた事があったが、実験道具や楽器、跳び箱などにも使われていた。私たち学生が学校生活を送る上で欠かせないもの全てにだ。これだけ多くのものを自分のお金だけで買うことは、とても困難である。もし、税金が使われなくなったら、学校に行けない人が出てきてしまうかもしれない。しかし、小・中学校までは義務教育になっている。よって、このような事態を起こさないためにも教育に税金が使われているのだと思う。それに加えて、公立の小・中学校の先生の給料にも私たちが納めた税金が使われているという。私はこれには驚いた。いつも支えてくれる先生方に少しでも恩返しができる出来れば良いなと思った。

私が住む地域では、子どもの医療費を町が全額負担してくれる。この制度は昨年から始まったもので、半年前病院に行ったとき初めて知った。診察や薬が無料だったので正直戸惑った。少し罪悪感を感じながら帰ったのを覚えている。そのときは考えていなかったが、今思うと税金があるからこそこのような制度を実施することが出来たのだと思う。子どもは将来、社会をつくる中心になる。私は税金に生かされていて、その期待に応えなければならぬ。助けてもらっているからこそ、近い未来私たちは社会に貢献するのだ。

これらの事を通して私はこう考えた。「税金で私たちは繋がっている」と。私たちは、日々の暮らしの中で税金を払っている。それらは、自分の見えないところで誰かの役に立っていて、自分も誰かの税金に救われるときが来る。税金は私たちを支え、想いを紡ぐ柱の一つだと思う。

納税は国民の義務だ。義務と聞くと嫌な思いになる人がほとんどだろう。私もその一人だった。しかし、周りを見てみるとあらゆるところで税金が活躍している。これらは国民のお陰であり、その中にはもちろん自分も含まれている。

義務だと思っていた自分の行動が世界を救う。納税は立派な人助けだ。そんな優しさでありふれている幸せな社会を当たり前前にしたい。